

バスケットボール

こんにちは！国際交流員のスティーブン・キーンネルです。今日は大人気のスポーツ、バスケットボールを紹介したいと思います。来年のオリンピックのバスケットボール競技は、多くの方々が観ることでしょう。バスケットボール男子日本代表が44年ぶりに参加します。東京2020大会では3人対3人のバスケットボールもオリンピック競技として初めて開催されます。皆さん、オリンピックのバスケットボール競技をぜひ観てみてください。

バスケットボールはボールをバスケットに上から通し得点を取り合うスポーツです。5人対5人で流動的にコートを行き来し、瞬間的に攻撃から守備に替わるスポーツです。ボールを持ったまま移動してはいけません。移動するためにドリブルをします。ドリブルとは掌でボールをつきながら、コートを進むことです。もちろん、ボールに対して足は使えません。相手のバスケットまで進むにはチームメートにパスすることも大事です。ゴールの得点はどこからショットを放つかにより異なります。例えば、3ポイントラインの外からショットすれば3ポイントです。3ポイントライン内やスラムダUNKは2ポイントになります。反則をされた場合に特別なショット「フリースロー」を受けます。フリースローというのは、指定されたラインから自分のペースでショットを放つチャンスのことです。フリースロー中に相手は守備等できず、見ているしかありません。フリースローでシュートを決めると1ポイントになります。



バスケットボールと言えばやはりスラムダUNKのイメージが必然的に頭に浮かぶでしょう。

私が子供達に初めてバスケットボールを紹介するとしたら、ダUNKをしようとしている空中の

マイケル・ジョーダンを描写するあの代表的な写真を見せると思います。¹

バスケットボールは1936年のオリンピック以来正式種目になっています。2016年のリオオリンピックまでオリンピックバスケットボールは5人制のみでしたが、東京2020オリンピックではアメリカで私も友達とよくしていた3人対3人（3x3）の種目も開催されます。3x3は進みがより早く、時間がより短く、5人制のバスケットボールコート

¹ そのダUNKは「マイケル・ジョーダン伝説のダUNK」で検索すると見られますよ。

の半分のみを使います。3 x 3に出場する選手はアマチュアが多いらしいです。3 x 3の出場権は国際バスケットボール連盟のランキング及び2つの予選大会で手に入れることができます。

東京2020大会で、バスケットボール男子日本代表が44年ぶりにオリンピックに出場します。FIBAバスケットボールワールドカップ予選を奇跡の8連勝で突破し13年ぶりに出場権を得たことでオリンピックの出場も勝ち取りました。最近日本のバスケットボールが勃興しています。それはなぜかという、才能を持つ若い選手が次々と登場しているからです。例を挙げるとバスケットボール史上においてNBAドラフトで選ばれた日本人2人目の八村塁選手、NBAの本試合に出場した日本人2人目の渡邊雄太選手、それからNBAサマーリーグに招待された馬場雄大選手と2018BリーグMVPの比江島慎選手もいます。ワールドカップの1次ラウンドでは、私の母国であるアメリカと対戦する予定です。

今回のオリンピックではアメリカの出場はいわゆるドリームチーム（NBAスーパースターでしか編成していないオリンピックチーム）となるのでしょうか。そうだとするとそのドリームチームにだれが出るのでしょうか。ステファン・カリー、レブロン・ジェームズ、ジェームズ・ハーデンはほんの数例です。アメリカは18回オリンピックに出場し、18回メダルを獲得しました。2回は銅、1回は銀を、そして15回金メダルを取りました。アメリカは世界ランキング1位でワールドカップに出場します。日本との試合は楽しみですね。

3回銅メダルを獲得したいつも強いリトアニアもワールドカップに出場します。ワールドカップチームにNBAトップセンターの一人、身長213cmのヨナス・ヴァランチューナ選手とインディアナ・ペイサーズのドマンタス・サボニス選手がいます。

初のオリンピックバスケットボールでのメダルを目指し、バスケットボールが大人気な国のドイツもワールドカップに出場します。今回は19歳のアイザック・ボンガ選手（NBAのワシントン・ウィザーズ）、ダラス・マーベリックスのマキシ・クレバー選手、ボストン・セルティックスのダニエル・タイス選手、それからキャプテンのロビン・ベンツィング選手は皆強いです。8月24日に国際強化試合で日本と対戦し、この時は日本が86対83で接戦をものにしました。

最近の強い選手の登場、それから3 x 3も含め、東京2020オリンピックバスケットボールは必見ですよ。